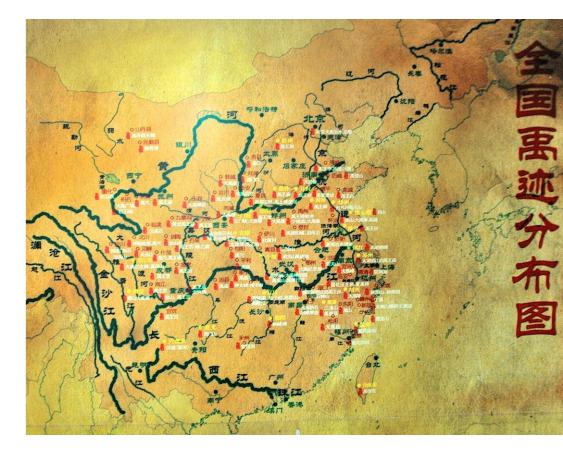




大脇良夫「禹王の足跡を巡る旅」 水の文化楽習実践取材「富士山と酒匂川」 岡田真美子「禹王を祀る原動力」 島谷幸宏「生きている川 酒匂川」 深谷克己「田中丘隅を認めた時代」 植村善博「時間・空間で読み解く鴨川」 千明金造「片品村五千人の心意気」 古川京司「大禹謨発見のドラマ」 古賀邦雄 水の文化書誌「黄河は流れる」 蜂屋邦夫「禹の治水と中国史の流れ」



ミツカン 水の文化センター

表紙上:中国・紹興の大禹陵にあった棟飾りは、剣に刺し抜かれた龍。単純に考えれば、水の象徴である龍を治めた、と言えなくも ない。しかし、中国では文化大革命などで古いものがいったん壊されたため、本来の意味を伝えるものかどうか、ルーツを 探るのが難しくなっている。

表紙下: 禹王城址は黄土で築かれた高台の上の禹王廟のほか、歴代の夏王が並んでいる博物館がある。禹王廟は3室に分かれ、妻の徐 氏と禹の像、そして毛沢東の写真が飾られている。再興も維持管理も村人が行ない、春と秋には盛大な祭りがあるそうだ。

裏表紙上: 大禹陵の博物館にあった、禹にかかわる事跡図。地方に行くと、もっとたくさんの事跡があることが判明。禹を訪ねる旅 はまだまだ続く。

裏表紙下: 左が片品村にある大禹皇帝碑。右が中国の大禹陵にある岣嶁碑の模刻。1行の文字詰めが違うので、中国の碑文を並べ替え てみた。独特の書体も含め、極めて似ていることがわかる。片品村に、なぜここまで酷似した碑があるのかは謎。2012年 10月20~21日に開催される〈第2回全国禹王まつり 禹王サミットin 尾瀬かたしな〉で、この謎が解明されるのだろうか?









水の文化 February 2012 No.